

沖技術戦略

長谷川 晴朗 小山内 好博

当社は、技術革新のスピードがきわめて速い情報・通信・デバイスの分野において、数々の優れた商品をお客様に提供し続けている。

今後、沖グループとして更に新たな価値を創造し、かつ一層の飛躍を図るべく、企業を取巻く外部環境や社内状況を把握した上で、どうすれば技術強化を図れるかの観点から沖技術戦略を策定した。以下では、その策定プロセス、今後強化すべき技術分野、および強化のための各種施策について記す。

生活を送れる社会（e社会[®]*1）への期待が大きい。そのe社会[®]実現のためには、『いつでも、どこでも、誰とでも』、『欲しい情報を望む形で』、『安全に、確実に、適正な価格で』提供できるグローバルなネットワークを構築する必要がある。このネットワークはブロードバンドIPネットワークからなり、社会・経済・産業の構造を劇的に変化させ、供給者の論理だけではなく利用者の便利さを考えて、つまり個の視点に立脚してe社会[®]を実現することができる。

ネットワークの目指すところ

当社は、企業ビジョンとして「ネットワークソリューションの沖電気」を掲げているが、その基本思想を図1に示す。

現在の激動社会においては、誰もが安心して心豊かな

沖電気の事業ドメイン

e社会[®]の基盤となるネットワークを実現するためには、高速化、マルチメディア対応、セキュリティ強化等の技術的課題がある。当社はこれらの技術課題に取組み、お客様にネットワーク関連のソリューションを提供している。

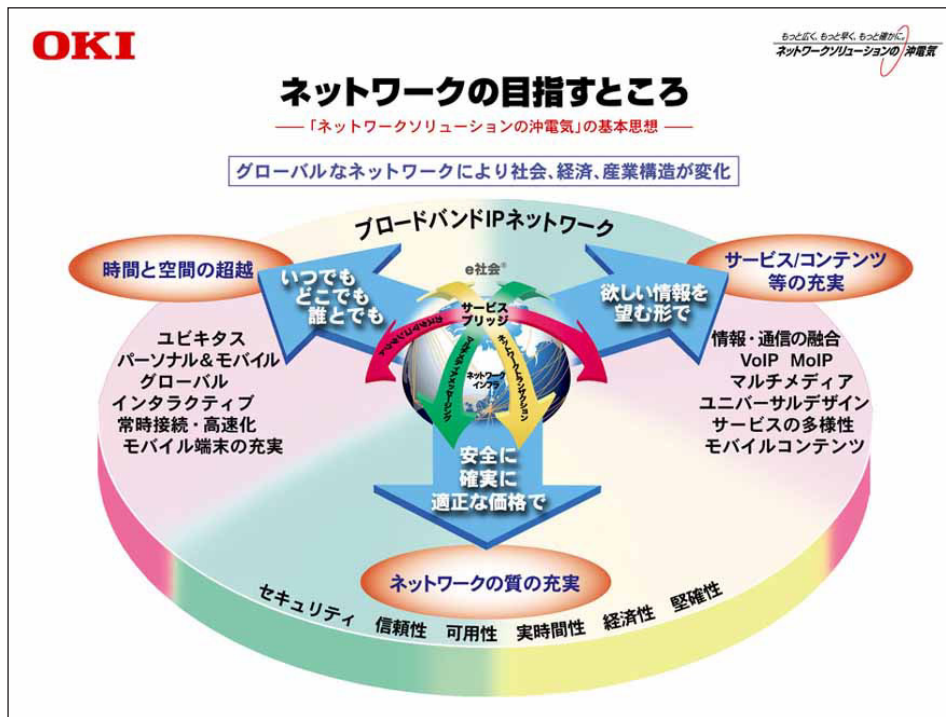


図1 ネットワークの目指すところ

*1) e社会は沖電気工業(株)の登録商標です。

「ネットワークソリューション」の中核をなす事業に、『カスタマコンタクト (CC)』、『マルチメディアメッセージング (MM)』、『ネットワークトランザクション (NT)』、『ネットワークインフラ (NI)』、またこれらの事業を支える『プリンティングソリューション (PS)』、『光コンポーネント (OC)』、『シリコンソリューション (SS)』がある。

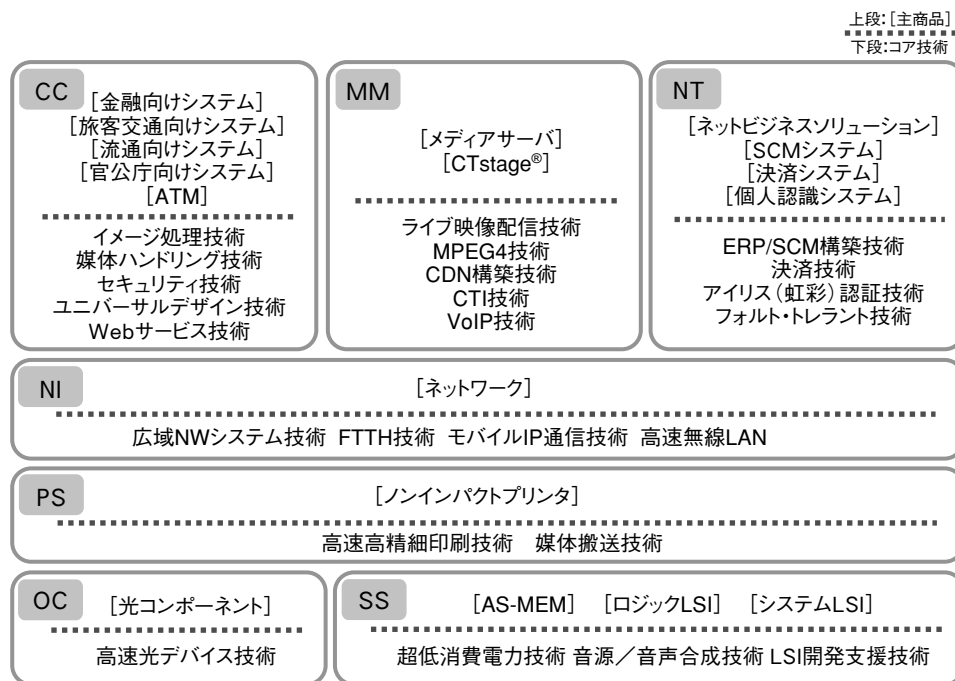
- CC**：顧客接点を持つサービス企業に対するソリューション
- MM**：コンピュータテレコミュニケーション技術に基づくメッセージングソリューション
- NT**：決済やセキュリティを核としたeビジネスソリューション
- NI**：ブロードバンドIPネットワークやそのサービスを提供するソリューション
- PS**：LEDヘッドを特徴としたページプリンタとそれを用いたソリューション

OC：光半導体技術をコアとした光コンポーネント
SS：LSIによるソリューション

今後の主要事業とコア技術

当社は主要事業の各々において、ネットワークソリューションを提供するために世界一流の商品を開発しており、その商品のコア技術は沖独自の強み技術から構成されている。

例えば、CCでは金融向けシステムやATMが主商品であり、媒体ハンドリング技術やユニバーサルデザイン技術等がそのコア技術である。同様に、MMではメディアサーバやCTstage^{®*2)}におけるライブ映像配信技術やCTI技術、NTでは決済システムや個人認識システムにおける決済技術やアイリス（虹彩）認証技術が、当社の保有するコア技術である。当社の目指す今後の主要事業とコア技術を図2に示す。



MPEG: Moving Picture Expert Group
 携帯端末などの低速回線用の符号化技術と高度な動画フォーマットに対応する圧縮符号化方式

CDN: Contents Delivery Network
 映像等のコンテンツを効率的に配信できるネットワーク

CTI: Computer Telephony Integration
 音声自動応答のように、コンピュータと電話を統合して新たな価値を創造する技術

VoIP: Voice over Internet Protocol
 インターネットやイントラネットのようなIP (Internet Protocol) ネットワークを利用して、音声信号を送る技術の総称

ERP: Enterprise Resource Planning
 生産や在庫、購買、販売、物流、財務会計、人事といった企業内の経営資源を一元的にリアルタイムで管理していく経営概念。

SCM: Supply Chain Management
 生産や在庫、購買、販売、物流などのすべての情報をリアルタイムで交換することで、全体の効率を大幅に向上させることを目指す、情報ネットワークを活用した経営手法の一つ。

FTTH: Fiber to the Home
 アクセスネットワークを完全に光ファイバー化して、利用者の家まで光ファイバーを引き込むという構想

AS-MEM: Application Specific Memory
 携帯等の特定用途に用いるメモリ

図2 今後の主要事業とコア技術

*2) CTstageは沖電気工業(株)の登録商標です。

現在保有しない技術を手広く開発しても自社の強み技術にはなり難く、この競争の厳しい時代は生き残れない。現有のコア技術を更に強化、あるいは新たなコア技術を創出するために、今後の事業の方向性を見据えて、技術開発の集中と選択を進めていく。沖の持つ技術の優位性を基に、更に差別化を図っていくことが重要である。

自社研究開発と外部技術導入

スピードが事業競争力の要である今日、全ての技術を自前で開発することは困難である。開発費負担の軽減、リスク回避のためにも、自社で開発すべき技術と社外から導入を図るべき技術を、事業上の位置付けから戦略的に選択することが重要である。コア技術は、他社との差別化を図るために自社開発し、差別化の要因にならない技術は原則として外部から導入する。

当社は、事業上の位置付けから技術を4分類し、各技術分類別に獲得方針を決めている。技術の位置付けと獲得方針を表1に示す。図2におけるコア技術は、表1の戦略技術の位置付けであり、当社の経営資源を集中して獲得する技術分野である。

表1 技術の位置付けと獲得方針

	技術の位置付け	獲得方針
萌芽技術	将来の事業化可能性が不透明な技術。	将来の事業化追求のための調査及び研究開発を行う。国家プロジェクト等の活用も考える。
途上技術	将来の事業化の可能性が大きいがリスクのある技術。	事業戦略上の位置付けを明確にして、自社開発か外部導入か決定する。
戦略技術	明確な事業活用性があり、他社との差別化上重要な技術。	自社開発を基本として技術リソースを集中する。独占使用が可能な場合は外部導入も考慮する。
基盤技術	他社との差別化が困難な成熟した技術。	外部導入を基本とするが、社外に無い技術は必要最小限のリソースで自社開発する。

外部からの主要な技術導入先に大学がある。当社は、これまでも委託研究・共同研究といった形で大学の研究リソースを活用してきた。今後は、大学側の企業とのリエゾン機能を活用し、新事業創出を狙って今まで以上に大学との連携を図っていく。

技術リソースの効率的活用と技術者育成

当社は、自社の技術力を的確に把握するため技術者マップを作成している。個人別の保有技術と技術レベルをデータベース化することにより、技術リソースの効率的な活用が可能になると共に、技術者育成計画にも役立っている。

また、技術者の技術開発へのモチベーションを高めるために、ロイヤリティ収入に対し最高10%を青天井で与える特許報奨制度や、新技術開発に挑戦し成果が出た技術者にチャレンジ賞として最高500万円を与える表彰制度を設けている。

更なる強み技術の創出に向けて

世界一流の「ネットワークソリューション」を提供し続けるために、単独の強み技術を保有しているだけではなく、これらの技術を融合することにより新たな強み技術を創出し、スピーディな新商品開発へと展開していく。「技術の融合」は当社のこだわりの一つである。

強みを更に強く、また融合を図っていく技術分野は、通信分野から情報分野のシステム・サービスにも展開していく「音技術」、安心・安全なシステム・サービスを提供する「セキュリティ技術」、人間本意で、個人に最適化するシステム・サービスを提供する「ヒューマンインタフェース技術」等である。

当社はこれらの技術を世界一流へと強化するとともに、スピーディな事業創出のための「技術の融合」に注力していく。 ◆◆

● 筆者紹介

長谷川晴朗：Haruo Hasegawa.政策調査部長

小山内好博：Yoshihiro Osanai.政策調査部 技術企画チームリーダー